

育友会と ともに歩む

学長 佐々木重人

ささき しげと 1955年東京都生まれ。78年専修大学商学部卒業。83年専修大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学。同年専修大学商学部助手。講師、助教授を経て95年に教授。商学部長(2013～16年)。博士(経営学)神戸大学。税理士試験委員(2011～13年度)。日本会計史学会会長(2013～16年)。16年より専修大学学長。担当は会計史。



2017年度の学事暦も桜の花とともに賑やかにスタートしました。日頃、在学生のご父母・保護者の皆様には、本学への物心両面でのサポートをいただきまして、ありがとうございます。また本年度から、新たに育友会員とられました新入生のご父母・保護者の皆様には、ご子女のご入学にあたり、お祝いを申し上げますとともに、入学手続にあたって賜ったご支援に対して心からお礼を申し上げます。

新入生にお願いしたいことは、数ある大学のなかで、縁あって専修大学入学を選択した以上は、最後まで専大生であり続けてほしいということです。受験生時代は、おそらく偏差値のような指標も気にされたと思います。しかし、偏差値だけで自らの可能性を規定するような発想は、この時点で棚上げにしてほしいと思います。新入生の皆様は、大学を経て社会に巣立ったとき、何をしたいのか、何になりたいのかを考えることだけに専念すべきです。これは在学生の皆様にも言えることですが、その将来イメージを思い描いたとき、今何をしなければならないのか、何ができるのかを思量して、専修大学を大いに使い込んでいただければと思います。

専修大学は、2014年度から開始された「新たな学士課程教育」のもとで、学生諸君に知と技能を鍛える4年間を提供します。「転換教育課程」に始まり「導入教育課程」を土台として、「教養教育課程」と「専門教育課程」が配置されており、両者を連結する「融合領域科目」の履修も可能としています。また本年度から、求める入学者像、教育目標やその達成手段の可視化を一層促すために、「アドミッション・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」そして「ディ

プロマ・ポリシー」を刷新しました。

私自身が専大生に対して持つイメージは、「内に秘めた情熱」にあると言わせていただきます。一見すると、とてもおとなしい印象ですが、それぞれの諸君は、自ら自身を冷静に見つめており、自分にとって何が必要かを知っていて、それを求めようと人知れず努力している、と言えるでしょう。

ご父母・保護者の皆様には、毎年7月末から8月にかけて、全国各地の会場で開催される育友会支部懇談会にぜひご参加をお願いいたします。「小学生や中学生の時には、学校の様子をよく話してくれたのに、今は、なにも教えてくれない」とおっしゃる方が個人面談の際に、大学での活動の様子的一端をお知りになり、驚かれたり喜ばれる様子を拝見するのは、我々にとっても楽しい瞬間です。

今年度から生田キャンパスでは、新たに2号館・3号館が運用を開始しました。博物館実習施設のほか、音響・映像設備が充実したアクティブスタジオとラーニングシアター等を含む、魅力的な建物に仕上がりました。また2020年度(創立140周年)に、神田キャンパスで今年度中に着工する新校舎(15階建ての高層ビル)を核とした国際系新学部設置・商学部の移設に加え、2019年度に生田キャンパスでの文学部ジャーナリズム学科新設、経営学部での新学科設置を予定しております。さらに経済学部のカリキュラム改革検討も開始されております。

今後ともご父母・保護者の皆様とも情報共有させていただきながら、ご子女の成長をサポートさせていただきます。よろしくご支援のほどお願い申し上げます。